

政策検討責任者会議開催結果

< 第 1 回 >

日時

2005 年 2 月 15 日 (火) 14:30 ~ 17:00

場所

一橋大学経済学部 214 教室

出席者 (敬称略)

政策 WG / 羽山伸一、寺西俊一、山下英俊、野田浩二

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、石川芳治、糸長浩司、吉田剛司

事務局 / 原田進、山根正伸、田村淳、内山佳美、倉野修、笹川裕史、白井眞、木村祐司、羽太博樹、山田博久、相馬麗佳

議題

今後の進め方、特定課題の設定、新・保全計画の位置づけ等について。

< 第 2 回 >

日時

2005 年 5 月 31 日 (火) 17:00 ~ 19:30

場所

日本獣医畜産大学 動物医療センター 504 会議室

出席者 (敬称略)

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、石川芳治、糸長浩司、吉田剛司

事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、内山佳美、倉野修、笹川裕史

議題

政策検討の進め方とスケジュールについて。

< 第 3 回 >

日時

2005 年 7 月 2 日 (土) 13:00 ~ 17:00

場所

日本獣医畜産大学 動物医療センター 501 教室

出席者 (敬称略)

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳、浅井美香

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、勝山輝男、糸長浩司、吉田剛司、富村周平

生きものチーム / 安藤元一、平岡正三郎、木下靖浩、村上雄秀、吉武佐紀子、

伊藤雅道、石綿進一、石井隆、矢ヶ崎朋樹、若代彰路、中山文、大脇健
情報チーム / 鈴木透、田中徳久
事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、内山佳美、倉野修、笹川裕史、羽太
博樹、永田幸志、角田繁和、藤澤示弘
オブザーバー / 池野正、鈴木孝次（緑政課）

議題

森林環境と整備のあり方について(課題の整理と、総合解析に向けた手法の検討)。

< 第 4 回 >

日時

2005 年 8 月 8 日 (月) 13:30 ~ 17:30

場所

県央地域県政総合センター 本館 3 階 会議室

出席者 (敬称略)

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳
各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、勝山輝男、糸長浩司、吉田剛司、富村周平
生きものチーム / 石綿進一、勝呂尚之
水土チーム / 鈴木雅一、石川芳治、伊藤かおり
情報チーム / 鈴木透
事務局 / 阿部耕太郎、高橋長三郎、山根正伸、田村淳、内山佳美、倉野修、笹川
裕史、入野彰夫

議題

溪流保全行動計画づくりのための現状整理。

< 第 5 回 >

日時

2005 年 9 月 21 日 (水) 17:00 ~ 22 日 (木) 16:30

場所

国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者 (敬称略)

政策 WG / 羽山伸一、寺西俊一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳
各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、勝山輝男、石川芳治、糸長浩司、富村周平、
吉田剛司
チームリーダー / 鈴木雅一 (21 日のみ)、原慶太郎
情報チーム / 鈴木透
事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、内山佳美 (22 日のみ)、倉野修、笹川
裕史
オブザーバー / 金子正美 (21 日のみ)、杉谷尚 (21 日のみ)

議題

丹沢自然再生基本構想の目次案、内容(自然再生の領域・原則・対象区域・目標)、新丹沢大山保全再生計画の方向性、等について。

< 第 6 回 >

日時

2005 年 11 月 10 日 (木) 13:00 ~ 17:00

場所

日本獣医畜産大学 本館 2 階・第 2 会議

出席者 (敬称略)

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、勝山輝男、石川芳治、糸長浩司、富村周平、吉田剛司

情報チーム / 鈴木透

事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、内山佳美、倉野修、笹川裕史

議題

基本構想骨子案と各個別施策の検討。

< 第 7 回 >

日時

2005 年 12 月 7 日 (水) 15:00 ~ 17:15

場所

西湘地域県政総合センター

出席者 (敬称略)

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、勝山輝男

生きものチーム / 石綿進一、石井隆、石原龍雄、山口喜盛、安藤元一

情報チーム / 鈴木透、田中徳久、杉村尚

事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、笹川裕史

議題

特定課題「希少動植物の保全・回復」「外来種の除去」の個別施策の検討。

< 第 8 回 >

日時

2005 年 12 月 20 日 (火) 13:30 ~ 17:00

場所

かながわ県民サポートセンター 302 会議室

出席者（敬称略）

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、勝山輝男、石川芳治、富村周平

水土チーム / 鈴木雅一、戸田浩人

地域チーム / 栗原伸治

事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、内山佳美、倉野修、笹川裕史、羽太博樹

議題

特定課題「ブナ林の保全・再生」「溪流生態系の保全・再生」の個別施策の検討。

< 第 9 回 >

日時

2005 年 12 月 21 日（水）14:00 ~ 18:00

場所

日本獣医畜産大学 本館 2 階 会議室

出席者（敬称略）

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、石川芳治、富村周平

地域再生チーム / 栗原伸治、藤沢直樹、日暮晃一、須藤章、鈴木教子

情報チーム / 鈴木透

事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、倉野修、笹川裕史

議題

特定課題「自然資源・地域資源を活かした地域の自立とつながりの再生」「自然公園の適正利用」の個別施策の検討。

< 第 10 回 >

日時

2006 年 1 月 19 日（木）14:00 ~ 17:00

場所

厚木南合同庁舎 2A 会議室

出席者（敬称略）

政策 WG / 羽山伸一、趙賢一、梶並純一郎、相馬麗佳

各チーム政策担当者 / 羽澄俊裕、勝山輝男、石川芳治、富村周平

情報チーム / 鈴木透、杉村尚

事務局 / 阿部耕太郎、山根正伸、田村淳、永田幸志、内山佳美、倉野修、笹川裕史、羽太博樹

議題

特定課題「シカの保護管理」「人工林の再生」の個別施策の検討。

< 政策連続会議 >

日時

2006年2月2日(木)～4日(土)

場所

2/2 国立オリンピック記念青少年総合センター

2/3・4 財団法人自然環境研究センター

開催概要

別紙のとおり

丹沢大山総合調査 政策検討連続会議結果

実施期間：平成18年2月2日（木）～2月4日（土）

場所・出席者・内容等：下記の通り

【2月2日（木）】 場所：国立オリンピックセンター404 会議室

1. 「検討の進め方・素材確認」

(1)時間 9:00～13:00

(2)出席者 政策WG：羽山、趙、梶並、相馬

情報T：吉田、鈴木

保全C：阿部、山根、田村、内山、笹川、羽太

(3)内容

政策合宿のスケジュールと進め方 [資料 2/2-am-0-0]

基本構想等のまとめ方 [資料基本構想骨子概要、資料 2/2-am-1-6]

・政策提言に関わる成果の出し方は次のとおり

提言書 A4 1～2枚 実行委員長が読み上げるもの

概要編 約50ページ、ですます体、 3月実行委で素案確定

詳細編 である体、専門的内容 3月実行委でドラフト提示

アトラス 第1集を取り込んだ完全版 3月実行委で目次とイメージ提示

・上記の構成とスケジュールを2/22 調査企画部会で確定する

特定課題行動計画のまとめ方 [資料 2/2-am-1-1]

・「現状と課題」と「再生目標と施策体系」の関係を明確にし、優先順位付け

・2/11WSで議論 2/15・16 情報Tが絵を作成 2/16pm・17 素案の仕上げ

・2/20 青木団長調整

推進体制のまとめ方

・実行体制については、以下についての提示する必要がある

自然再生委員会を支える「再生機構」の設置

関係機関の機能的統合によるモニタリング体制整備

情報と人材育成に関するプロモーション機能の強化

外部監視のシステム

・磯崎先生に、事例と理論によって裏付けてもらう

・資金財政フレームは、3日目に寺西先生のお話を聞いてから検討

事業統合の方法について

・特定課題ごとの個別計画を重ね合わせ、重点地域を抽出

・重点地域では、目標とモニタリングをし、検討委員会を設置

・これらを特定流域保全計画としてまとめる

事業は個々に行うが、現状認識を共有

- ・緊急対策事業の「塩水川流域保全計画」をモデルとする

政策検討に係る素材確認

- ・総合調査における主要な成果 選定方針（案） [資料 2/2-am-2-1&2&3]
- ・緊急性のある事業・施策 選定方針（案） [資料 2/2-am-2-4&5]

2 . 「溪流保全」

(1)時間 14:00 ~ 17:00

(2)出席者 政策WG：羽山 WGL、趙、梶並、相馬

情報T：吉田 GL、鈴木

保全C：阿部、山根、田村、内山、笹川、羽太

(3)内容

調査結果

- ・土砂流出長期変動（内山）： [資料 2/2-pm-1-1]
- ・丹沢溪流水質（内山）： [資料 2/2-pm-1-2]
- ・溪流生物からみた溪流保全の要望（田村）： [資料 2/2-pm-1-3]
- ・情報解析概要（鈴木）：解析図を GIS で提示、操作
- ・溪流生態系の保全・再生： [資料 2/2-pm-1-5]

問題構造の検討

- ・資料 2/2-pm-1-5 の P4 をもとに問題連関図のたたき台を作成

3 . 「人工林」

(1)時間 18:00 ~ 20:00

(2)出席者 地域T(なりわいG)：富村 GL

政策WG：羽山 WGL、趙、梶並

情報T：吉田 GL、鈴木

保全C：阿部、山根、田村、内山、笹川、羽太

(3)内容

調査結果

- ・土壌劣化関係（富村 GL）：口頭報告
土壌流出を地域で比較すると、札掛 > 山北 > 津久井
河床底質の有機質量は、世附・津久井 > 札掛
- ・人工林・二次林域における生きものチームの希望（田村）： [資料 2/2-ev-1-3]
- ・3つの統合解析（山根）： [資料 2/2-ev-1-4]
- ・情報解析概要（鈴木）：解析図を GIS で提示、操作
- ・人工林の保全と再生： [資料 2/2-ev-1-6]

問題構造の検討

- ・問題連関図のたたき台を作成

【2月3日（金）】 場所：財団法人自然環境研究センター 9F 会議室

1. 「ブナ林の保全と再生に関する検討会」（基礎調査検討会）

(1)時間 9:30～12:30

(2)出席者 政策WG：羽山 WGL、趙、梶並、相馬

水と土T：河野 GL、井川、相原、阿相

生きものT(ブナハバチ SG)：山上 SGL

情報T：吉田 GL、鈴木

保全C：阿部、山根、田村、内山、笹川、羽太、越地

(3)内容

調査結果

- ・ブナ林の衰退と樹幹着生種の関係について（田村）：PPT
- ・山間地でのオゾン濃度の観測 - 丹沢山系檜洞丸地点 - （河野 GL）：PPT
- ・酸性霧と森林衰退（井川）：PPT [資料 2/3-am-1-1]
- ・ブナ林衰退の機構解明のためのオゾン濃度調査（阿相）： [資料 2/3-am-1-3]
- ・丹沢調査 ブナハバチ報告（山上 SGL）：
- ・情報解析概要（鈴木）：解析図を GIS で提示、操作
- ・【特定課題「ブナ林の保全・再生」調査報告】 [資料 2/3-am-1-5]

問題構造と行動計画の検討

- ・資料 2/3-am-1-8 の P3 をもとに問題関連図のたたき台を作成
- ・提案事業とその評価の論議
植栽するなら、時間をかけて残存木の実を育て、耐性苗を植えるべき
いきなり裸地に植えず、少し標高を下げた所から少しずつ上げていくべき
ブナ以外の樹種も検討を
モニタリングの必要性

2. 「シカ影響」

(1)時間 14:00～17:00

(2)出席者 政策WG：羽山、趙、梶並、相馬

情報T：吉田、鈴木

保全C：阿部、山根、永田、田村、内山、笹川、羽太

(3)内容

調査結果

- ・シカモニタリングにおける植生調査結果等の追加説明（永田）：PPT

問題構造の検討

- ・シカ影響総合解析結果（鈴木）：解析図を GIS で提示、操作
- ・資料 2/3-pm-1-4 をもちに問題関連図のたたき台を作成

提案事業の検討

- ・概要書たたき台 [資料 2/3-pm-1-2] もとに施策・事業を検討
- ・検討の結果、再生手法の提案を以下のとおり整理
 - 高密度地への植生保護柵の集中設置と、大胆な管理捕獲を実施
 - 戦略的な捕獲体制の整備と新たな管理の担い手育成
 - 重点エリアで、総合的な生息環境整備をモデル実施 (ex 中津川流域)
 - 現行シカコリドールの科学的効果検証

3 . 「シカ影響に関する検討会」 (基礎調査検討会)

- (1) 時間 18:00 ~ 20:00
- (2) 出席者 シカ管理関係委員 : 古田、藤森、中村、堀野、時田
 生きもの T : 勝山、伊藤、羽澄
 情報 T : 吉田、鈴木
 政策 WG : 羽山、趙、梶並、相馬
 緑政課 : 木佐貫、栗林
 保全 C : 阿部、山根、永田、田村、笹川、羽太

(3) 内容

現状と課題

- ・シカモニタリング調査の結果 (永田) : [資料 2/3-ev-1-1]

シカ影響

- ・丹沢山地におけるシカ影響 ~ 総合調査の結果から ~ (伊藤 GL) : [資料 2/3-ev-1-2]
- ・丹沢堂平地区における土壌侵食調査の結果概要 (山根) : [資料 2/3-ev-1-3]

討議

- ・問題構造及び行動計画の検討状況 (羽山 WGL) : 口頭及び PPT
- ・提案した再生手法に関する討議
 - 溪畔沿いの人工林の広葉樹転換や保護柵設置など、溪畔林再生に重点をモデル整備は、是非実現してほしい
 - ” 出来れば尾根、緩斜面、溪畔など多様な環境を取り込んで設定を大胆な捕獲のためには、従来の捕獲方法の大幅な見直しが必要
 - 杉の緑枝はシカを扶養する能力が高いので、生息環境管理の中で考慮
 - 将来的には、水源環境保全税の一部をつかっていくべき
- ・特定計画改定のスケジュール (木佐貫) : 口頭説明

【2月4日(土)】 場所：財団法人自然環境研究センター 9F 会議室

1. 午前中「希少種・外来種」

(1)時間 9:00～

(2)出席者 生きものT：勝山、羽澄 情報T：吉田、鈴木

政策WG：羽山、趙、梶並、相馬

保全C：阿部、山根、田村、笹川、羽太

(3)内容

〔希少種〕

調査結果

- ・希少種の保護(勝山)：[資料 2/4-am-1-1]

行動計画の検討

- ・希少種対策整理表 [資料 2/4-am-1-3]
- ・情報解析概要(鈴木)：解析図及び保全エリア抽出図を GIS で提示、操作
- ・保全エリア抽出及び保全対策について討議
新 RDB 基準をもとに種のプライオリティを区分 エリア図化
土地としてのポテンシャルから場のプライオリティを区分 エリア図化
たたき台のア～ウに「丹沢の生態系のアンブレラ種」を加える
- ・2/11WS では以下の作業と討議を行う
種の選定基準(ロジック)の文字化と
場ごとの問題構造、種ごとの問題構造の図化

〔外来種〕

調査結果

- ・外来種の管理 [資料 2/4-am-2-1]

行動計画の検討

- ・外来種対策整理表 [資料 2/4-am-2-3]
- ・条例制定について
少なくとも対応指針は必要(ex. 1年以内など)
条例によって国定公園で国立公園並みの対応策がとれる
希少種と併せて生物多様性保全条例、環境基本条例への組込など WS で討議
- ・緑化植物
在来植物利用を進めるための奨励制度が必要、育成事業をプロジェクト化
特別保護区 of 山腹緑化については、代替技術の研究開発は必要
- ・アライグマ
厚木など既に生息が確認されているところは重点監視区域に
市民参加の専門家とタイアップしたボランタリーベースの監視体制
インターネットによる広域監視システム、情報収集システム開発
- ・ソウシチョウ、ガビチョウ

- ボランティアベースの実験的防除キャンペーン（巣の除去）
- ・ブルーリストモニタリング：市民参加による外来種の監視体制

2. 「オーバーユース・地域再生」

(1) 時間 13:00～17:00

(2) 出席者 地域T：糸長、藤沢 生きものT：勝山、羽澄 情報T：吉田、鈴木
政策WG：羽山、趙、梶並、相馬
保全C：阿部、山根、倉野、田村、笹川、羽太

(3) 内容

〔適正利用・エコツーリズム〕

調査結果

- ・自然公園の適正利用／エコツーリズムの推進 v1（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-1-1]
- ・自然公園利用での現状・実態・対策の整理表（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-1-2]
- ・エコツーリズム検討状況（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-1-3]

問題構造と行動計画検討

- ・問題関連図のたたき台を作成
- ・行動計画の検討
利用集中への対策は、分散化ではなく集中を維持して、集中路線を整備
雪解け期など季節的な利用規制やガイド付きを条件とした規制など
長期対策としては、適正利用指針、適正利用管理委員会
施設整備面では、施設カルテ、監視システム、技術開発が必要
キャンプ場について、自然公園法以外の規制や登録制度はあるか

〔自立的地域再生〕

調査結果

- ・自然資源・地域資源をいかした地域の自立再生 v1（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-2-1]
- ・地域再生総合解析手法案（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-2-2]

問題構造と行動計画検討

- ・問題関連図のたたき台を作成
- ・提案事業の整理検討
山麓の自立支援（自立再生プロジェクト、食農、鳥獣被害）
山麓と都市のマッチング（里山再生推進機構、里山エコツーリズム）
定住化対策（エコビレッジ）
- ・里山エリアでの重点共生区域選定ロジック検討（候補地までは示さない）
取組が先行している地域（地域再生調査、環境省事業、農地課事業など）
ポテンシャルの高い地域（地域の自立的組織や取組が存在するなど）
動植物の保全・管理の視点で重要な地域
鳥獣被害の視点で緊急度が高い地域
- ・里山域の景観域設定の検討

人工林域との境界は、集落・農地からバッファを発生させたものを使用

〔環境教育と情報発信〕

調査結果

- ・推進体制の柱として 環境教育と情報発信（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-3-1]
- ・環境学習での現状・実態・対策の整理表（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-3-2]
- ・環境学習カリキュラム案検討（糸長 TL）：[資料 2/4-pm-3-3]

基本構想における位置付けについて

- ・各行動計画を支える共通の基盤として「実施のしくみ」に書き込む
現状分析は、保全Cあり方研究会レポート
環境学習を担う主体に博物館を加える

3. 「推進体制」

(1)時間 18:00～20:00

(2)出席者 政策WG：寺西、磯崎、羽山、趙、梶並、相馬
保全C：阿部、山根、田村、内山、笹川、羽太

(3)内容

資金・財政フレーム（寺西）：口頭説明

(1)は、望ましいあり方について原則的な視点を提示 少し説明を加える

(2)は、具体的論点として以下の4点について記載

- ・水源環境税の位置付けについて中長期的視点で記載

総合調査は、水源環境税とは別立てで進んできたが、理念はほぼ一致
見直しの時に各再生事業を新税の用途に加えるべきと明記

- ・民間資金の活用について地域Tの須藤氏の提案を参考に例示的に提案
専門性が必要 専門委員会をつくることも含めて提案

自然再生法は財政的裏付け無し 民間事業を支える多様な財政基盤が必要

- ・既存財源と水源環境保全税や民間資金の関係性を整理
- ・再生委員会のもとで全体をコーディネートする資金財政委員会

上記を、基本構想概要版にはA4版2枚で記載（詳細版にはフルサイズで）

参加の考え方と役割分担（磯崎）：[資料 2/4-ev- -]

- ・納税者の参加保証など水源環境保全を前提とした課題には言及しない
- ・モニタリング、人材育成、環境学習の役割分担を明瞭に位置付ける
- ・言葉をもう少し柔らかく書き換える

（参考）推進体制・情報共有の進め方 構成（案）[資料 2/4-ev-1-9]

（参考）丹沢大山保全対策の推進体制について [資料 2/4-ev-1-10]